



# 中高生とともに差別と闘う

## 放っておいてくれ!

吉成タダシ (うずしおランチ代表)



放っておいてくれ!  
大谷選手が結婚を発表しました。なぜ発表をしたのか? みんながうるさいから  
その通り! 本当にその通りだと思いました。私なら、放っておいてくれ! と言いたいくらいです。自分のことでなくても、放っておいてあげて、と思ってしまう。あれだけの大物になってしまえば、結婚はどうするんだろう? うるさくなるんだろう? とは思っていました。でも、そのことと野球選手としての活躍に注目するのは別物です。なのに、なぜにそんなことを思ってしまうのか。あれだけの世界的なビッグプレイヤーになってしまおうと、さぞかしパートナード変だろ、と聞いた、同情のような、憐みのような気持ちで気になるのかもしれない。でも、そう思うならなおさら放っておいてくれ! です。

そもそも、女性が恋愛対象とは限らないはず。なのに、どうして「彼女」と決めつけられなければならぬのか。「恋愛や結婚に関心がない」という選択肢だつてあるわけ。多くの人が、自分の価値観、価値基準で人を見てしまいがちですが、人は多様です。限らないわけですね。これだけの多様性が叫ばれている現代なら、当たり前のように受け止められていいように思うのですが、結局のところ、まだまだ「自分事」になっ

ていないことの現れなのかもしれない。もう少し、日本人、日本の報道、「自分事」にならないものでしょうか。

**「家」と「家」の重み**  
前週、教え子の結婚式に行ってきました。ステキな結婚式でした。「家と家」ではなく、「個と個」のつながりや思いを大切にしたい結婚式だったように思います。三十年近く前、自身の結婚式のとき、この「家と家」の結婚式の嫌で嫌で、式場担当の方に一つ一つの注文をつけたものです。ダメ出しされるかな、と思いつつ相談すると、「いいですよ」と、ニコニコ笑顔で快諾していただけました。他にも、元号を廃するとか、平服での参加とか、仲人を立てないとか。結婚式の招待状には、「日本国憲法第二四条を可能な限り誠実に守っていく誓い」として本披露宴を」との言葉に、二人の名前を添えました。

**憲法第二四条「婚姻は、両性の合意のみに基いて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」**  
部落差別にかかわって、結婚差別のリアルな話を聞く機会が、本当にたくさんありました。ですから余計に、「両性の合意のみ」の、「のみ」に重みを感じていました。なくても成立する一文です。にもかかわらず、敢えてこの二文字を

入れることの意味。そこに、二四の奥深さを感じるのです。

**多様な価値観**  
今、これを書いているのは、三月三日。この日は、私たちの結婚記念日です。そしてこの日は、部落の完全解放を謳い立ち上げた水戸社創立記念日でもあります。今考えると私たちの結婚式、まだまだ変えるべきことはあったかと思えますが、それが当時の私たちの精一杯でした。

そもそも結婚するについて私の両親は、「部落の人だけはやめて」と言うぐらい、差別意識の強い人でした。ありとあらゆる「しきたり」や「習わし」に、いちいちこだわりを主張していました。それに対して私は猛烈に反発し、言い争ってききました。結婚を初めて告げるときも、母は私にこう問いました。「どこの人?」「何をしてる人?」それまでいい加減差別問題について議論してきたにもかかわらず、まだそれを訊くか、という思いで、私はつっけんどんに返します。「女性。何をしてるかは関係ない」もう少し大谷選手みたいにソフトに返せばよかったのかもしれない。私が、当時の私にはまだ無理でした。

同じころ、全国どこも同じような状況だったかというところ、そうではなかったと思います。私よりも前に札幌で結婚をした友人は、会

費制の結婚式でしたから、おそろく地方によって偏りはあるのだと思います。もしかすると、場所によつては今も、人権への配慮に欠けるような場面もあるかもしれません。でも、多様性と言えませんが、要は固定観念に縛られるのではなく、多様性が許されるような式であるかどうかだと思います。

**ライフスタイルが変わる**  
先日、同性カップルの結婚式場が引き受けてくれないう記事を見ました。「この時代はまだ!」と、ア然としました。ということは、私の結婚のときに感じた担当者とは異なる、旧態依然とした考えも、ブライダル業界のなかにあるということ。とはいえず、昨年呼んでいた教え子の結婚式もステキな結婚式で、私ときには当たり前だった上司からのスピーチもありませんでした。さらに今回の式では、スピーチも友人代表のみでした。

本当に呼びたい人を呼ぶ。聞きたい人のスピーチだけに。自分たちにとつても、招かれた人たちにとつても、本当に気持ちのいい式。こんなふうに、人の人権意識によつて、結婚式も多様になっていくのだと思います。それは特別なことではなく、ごく当たり前の、自然な、誰にとつてもやさしい「お祝いごと」になっていくという事です。

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

人間としての生き方を考える道德教育と同和教育⑩ ~生き方を考える教育として~

## 「大会主題『人間としての生き方を考える道德教育』

「舞台の横に書かれている大会主題を見てみると『人間としての生き方を考える道德教育』と書いてある。人間としての生き方を考えていく上では、同和教育も道德教育も変わらない」

授業終了間近に語られたその生徒の言葉は、500名を超える参観者の心に広がるとともに、私の心に深く刻まれました。

### S・Eの語り

「今、この場に自分がいることをとてもうれしく思う」

この『ナイン』の資料を最初に読んだときは、まさかこの『ナイン』が同和問題学習と重なっているとは思わなかったけど、みんなの意見を聞くと、そうだなあと納得できて、今、この場に自分がいることをとてもうれしく思います。

このみんなとずっとこれからも部落差別の解消に向けて、頑張っていきたいし、ナインは正太郎のせいでくずれていったけど、私たちは絶対正太郎みたいな人を出さず、深い絆で結ばれる関係であり続けたいです。



### K・Tの語り

「私の友だちが初めて手を挙げてくれて、すごうれしい」

今日、私の友だちが初めて手を挙げてくれて、すごうれしかったです。友だちもうれしかったと思うけど、そのうれしさが自分のことのように思えてきて、何か本当にうれしかったです。

それと、今日手を挙げられなかった人も、自分はできないと信じないで、自分はできるんだと信じたら絶対できると思うから頑張ってほしいです。

## 授業終了時間を10分近く過ぎたところで起こったこと

まだ10名近くの生徒が挙手する中、私はクラスの一人一人に感謝を伝え、授業を終えようとしていました。その時、委員長のH・Iが、強い言葉で時間の延長を訴えてきました。そして、その言葉に押されるように、私は「時間もらいます」と発言し、R・Hを指名しました。

### R・Hの語り

「みんなの意見を聞いて、発表する気持ちが沸き起こってきました」

僕は今まで一回も発表したことがなかったけど、みんなの意見を聞いて、発表する気持ちが沸き起こってきました。この授業をする前、『ナイン』は同和問題学習とは全然関係ないと思っていたけど、『ナイン』を勉強していくうちにやっぱり同和問題学習と結びつきがあるんだと思いました。だからこそ何かこんなに熱いものがこみ上げてくるんだと思いました。



本気の人権学習は、——「すべてを変える」

うずしおランチ共同代表 森口 健司